

食用廃油を燃料化

2007-1-16 (火)

札幌全区で通年回収

公用車での使用も検討

札幌市は十五日、家庭から出る使用済み食用油を回収し自動車燃料として再生するため、回収拠点を市内全十区に設置、通年の資源化に乗り出した。同市環境局は「市内全域で常時、使用済み食用油を回収し資源化する制度は、道内自治体では例がないのでは」としており、安定した回収量が確保でき次第、公用車への利用を検討する。

同市が昨年十月から十二月末まで行った「家庭用廃食用油資源化促進モデル事業」では、市内の飲食店やスーパリーなど九カ所の回収拠点で使用済みの食用油二千八百八十リットルを回収。専門業者に委託し九割程度を軽油の代替燃

料「バイオディーゼル燃料」(BDF)に再生した。

同市環境局は「予想以上の好結果だった。恒常的なリサイクルが可能だ」ということが確認できた」とし、全市での通年回収に踏み切った。

通年実施にあわせ、市内の回収先などを飲食店など三十一カ所に拡大。市は今後もスーパリーなどに協力を呼びかけ増やす方針だ。

BDFはディーゼルエンジン車にそのまま使用でき、軽油と馬力はほとんど変わらないが、排ガスから有害な硫黄酸化物がほとんど出ない。同局は「ごみの減量と同時に、環境への負荷も減らすことができる。公用車に利用すれば、さらに市民へのPR効果が高まるのでは」と話している。